

教育実習が学生に与える影響について
田原 滉陸 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 柴田 俊和

キーワード：教育実習，教員志望，教職課程

1. 緒言

筆者は将来小学校教員になりたいと考えており，公立小学校と公立高等学校での実習を体験した．2回の教育実習を体験し様々なことを学んだ．人として成長できたと感じ，教員になるという意志が強くなった．しかし，実習を終え，周りの経験を聞くと，教員志望の気持ちが高まるような経験をしている学生ばかりではなかった．実習先，指導教諭，生徒，実習生などのどこに差があり，それらが教員免許取得に対する考え方にどのような影響を与えているのか疑問に感じた．

教育実習の目的や意義について本学の教職ハンドブックで次のように述べられている．

①保健体育科の授業の計画と指導，生徒指導，学級・ホームルーム活動，学校行事，部活動等の指導に関する実践的な知識や技能の向上を図る．②教職意識の高揚に努め，教職をめざすことの意義について学ぶ．③教員になるために求められる資質や能力の向上を図る．

これらの目的や意義を実際に達成できている学生ばかりではない．学生それぞれの教育実習の何が異なり，何を学び，何が変容したのかを明らかにしたい．またその結果を本学の教職課程の講義改善に役立てたいと考えた．

2. 研究方法

本学の4回生教育実習履修者の123名を対象に選択記述形式でアンケート調査を行った．回収できたのは89名(72.3%)であった．

3. 結果と考察

教育実習が学生に様々な影響を与えていた．教育実習に行く前の不安で「授業がうまくできるか」を選択している学生が，教育実習で失敗したと感じる傾向が見られた．実習初期での授業は失敗して当然という考え方を持つておく必要があるといえる．

教育実習を成功させるためには，事前準備を入念にしておく必要がある．そうすれば，教育実習開始前に指導案の作成が完了でき，指導案作りの時間を子どもたちとのコミュニケーションや，教材研究の時間に使うことができる．教育実習前の事前準備を積極的に取

り組んでいく必要があるといえる．

学生は，教育実習を経験することで自分の知識のなさを実感する．そのため学び続ける力が必要であると認識できるようになった．これは教員にのみ求められていることではなく，様々な分野に必要な力だと筆者は捉えている．教育実習は学び続けることの必要性を再確認できるものである．

4. まとめ

本研究において，教員志望に対する考え方が変容した学生がいた．その要因として，教育実の指導教諭やその指導方法が影響していることが考えられた．

また，本学の教職課程に満足していない学生がいた．教職課程の改善が必要であることが分かった．方法として，「教科に関する科目」の講義において，その指導法も教える．その実践の場として，児童生徒を対象に授業を行う．その前段階として学生に模擬授業さらには模擬模擬授業を行う．実際の教育実習のように失敗をし，改善をしてから授業を行うこと，模擬授業を何度も行うことが必要である．

だがこれまでの教職課程で教育実習を実りあるものにできている学生がいることから，学生自体の受講態度も改める必要があることも分かった．

引用・参考文献

1. 刈谷三郎ら(2010)「教育実習指導教員の役割」教師として育つ，明和出版，pp.104-113.
2. 木原成一郎(2011)『『学校を基礎にした教員養成』における教育実習』教師教育の改革，創文企画，pp.75-91.
3. 北神正行(2003)「教育実習で何を学ぶのか」教師の条件，学文社，pp.39-62.
4. 文部科学省(2015)これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申案)
5. 柴田俊和(2008)「教育実習を成功させる5つの心得」体育科教育，大修館書店，pp.32-35.